

# 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

## 学校の概要

大阪市立常盤小

学校

児童数

196

### 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	14.89	18.74	33.89	39.41	39.60	9.85	143.76	18.75	49.60
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	14.84	19.11	40.74	38.73	31.92	10.03	144.36	12.01	53.32
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

### 結果の概要

体力合計点については、男子が3.42ポイント、女子は0.65ポイント全国平均より低いものの、女子は市平均を上回る結果であった。種目別に見ると「長座体前屈」においては男女ともに全国平均を上回っている。また、女子では「上体起こし」「反復横とび」「立ち幅とび」においても全国平均を上回る結果となっている。一方、「握力」「20mシャトルラン」「50m走」「ソフトボール投げ」においては、男女ともに全国及び市平均を下回る結果となっている。

児童質問紙項目「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的に回答した割合は、男子65.8%全国比(-6.9P)、女子56.2%(+2.1P)となった。男子については全国平均を下回る結果となった。女子については全国平均を上回る結果となったものの、「きらい」「ややきらい」と回答した児童の割合が19.1%(+4.9P)であり、全国平均と比べて、運動やスポーツをすることに否定的な回答をしている児童の割合が多い結果となった。

1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子10.3%(+0.5P)、女子22.1%(+4.8P)となり、男子は全国平均とほぼ同程度であるものの、女子は全国平均を約5ポイント下回る結果となった。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校では、児童数が多く運動できる場所が限られている中で、限られたスペースを有効に活用したり、場の工夫を行ったりすることで、児童の体力向上を図ってきた。また、年度当初に年間指導計画を学年全体で共有し、児童が様々な運動に触れることができるよう計画的に学習を進めてきた。その結果、女子においては「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「立ち幅とび」において全国平均を上回る結果が見られ、これまでの取組が一定の成果として表れていると考えられる。特に「長座体前屈」においては男女ともに全国平均を上回っており、柔軟性に関する力については、一定の成果が見られる。しかしながら、「握力」「20mシャトルラン」「50m走」「ソフトボール投げ」においては、男女ともに全国及び市平均を下回る結果となっており、筋力・持久力・投能力の向上が課題として挙げられる。また、男子では体力合計点が全国及び市平均を下回っており、体力の底上げを図る取組が必要である。

さらに、児童質問紙の結果を見ると、女子では運動やスポーツに対して否定的な意識を持つ児童が一定数見られる。また、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合についても女子では全国平均を下回っており、運動習慣の形成にも課題が見られる。

今後も、運動の楽しさを感じられる活動を充実させるとともに、「する」「見る」「支える」「知る」といった多様な関わり方を取り入れながら、児童が主体的に運動に関わることができる環境づくりを継続していくことが重要である。また、基礎的な運動能力の向上につながる動きを体育授業の中に取り入れ、各領域の特性を踏まえながら日々の授業の充実を図っていく。こうした取組を通して、児童が生涯にわたってスポーツに親しみ、豊かなスポーツライフを実現していくための基礎を育てていく。

